



西米良中学校の教育

生徒の自立を目指して

自立と参画を目指した「村応援プロジェクト」

西米良中学校では、生徒の「自立」を目指しています。地理的に自宅から高校に通うことが難しく、親元を離れての高校生活になることから、中学校段階で自立した生活習慣や学習習慣を身に付けることを重視しているのです。

また、村当局はICT等の教育環境充実や子育て環境充実に熱心に取り組みされており、村民の方々も子どもたちを村の宝として大切にしてくださっています。従って、中学生も村民としての参画意識を高めることはとても大切であり、「自分には何ができるか」を考えて具体的なアイデアを出す機会を設けています。

最近の授業では、「温泉に人を呼ぶにはどのようにしたら良いか」をテーマに学習をしました。村の案内所に行くと、生徒は観光案内に外国語表記が無いことに気づき、「観光案内に外国語表記を入れると外国人観光客が増えるかもしれない」といったアイデアも出てきました。生徒は、村民としての意識を持ち、積極的に取り組んでいました。これらの活動は、総合的な学習の時間で行っており、村応援プロジェクトと名づけています。他にも地元につながる音楽や太鼓を生徒に継承したり、地元の実業家の方からキャリア教育に関する講話をいただいたり、村に移住されている方のお話を伺ったりするなど、村と家庭・地域そして学校が三位一体となった教育を推進しています。これが、「西米良だからできる」

「西米良だからやらなければならない教育」の一つだと考えています。そして、今は「応援者」と位置付けている中学生が、いずれは「当事者」となっていくことが夢です。

アナログとデジタルのベストミックス

授業では、ICTと紙教材の双方の良さを活かし、目的に応じて使い分けることが大切だと思っています。生徒は、ICTを使つて学習することで学習意欲が高まったり、インターネットで効率よく情報を収集できたりします。一方で、学習活動では紙をめくったり、大切な部分にマーカーを引いて学習することも大切です。学習活動に応じてデジタルとアナログ教材のよさを活かし、バランスの良い比率で授業をすることが「デジタルとアナログのベストミックス」であり、教員に求められる指導力です。

eライブラリが、生徒の好奇心をくすぐる

eライブラリで学習している生徒を見ると、いつもこやかに学習をしています。それは、eライブラリが生徒の知的好奇心をくすぐり、学びに向かう意欲を引き出しているからだと思います。また、学習した結果が数値で残るため、指導方法の改善にも役立ちます。さらに、生徒一人ひとりが習熟度に応じた教材で学習ができるため、つまづいている生徒への個別指導の時間をしっかりと確保でき重宝しています。今では、eライブラリを使った

朝自習を週2回実施しています。また、家庭学習の方法の一つとして持ち帰り学習も始めました。家庭学習においても、従来からのノートやワークを使つての学習とICTを使つての学習でのベストミックスを模索していきたいと思っています。

教員が理念やノウハウを継承する

西米良村は僻地のため、教員は短い期間での異動が多くなります。そのため、村民の方々が本校や本校生徒に寄せる想いであるとか、それに基づいた本校の教育理念などを確実に継承していくことが重要です。ICT活用ノウハウ等についても、新しく赴任した職員が早期に身に付けて「活用のタイムラグを発生させない」手立てが必要だと感じています。定期的に学校に派遣していただいているICT支援員との連携など、効率的な運用法を探っていきたいと思っています。

生徒は、疑問を感じたら自らインターネットを利用して調べたり、自分たちで撮影した写真や動画を使つて考察や意見交換をしています。また、集会等で自作のプレゼンテーションも使つて説明することに慣れていきます。紙で資料を配付することも減り、ペーパーレスにも繋がります実践だと思っています。今後は、探求活動の場面などにおいて、生徒自身が「学び方」や「学ぶためのツール」を主体的に選択していく、つまり生徒にもアナログとデジタルのベストミックスに目を向けさせるような機会を増やしていきたいと考えています。

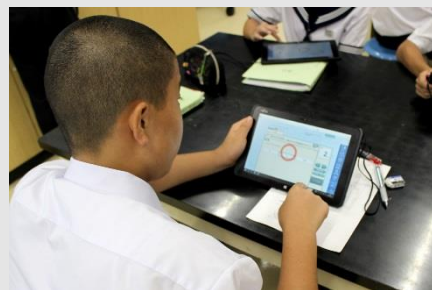
ICTを活用した授業



デジタル教科書を電子黒板に投射してわかりやすく解説。



電子黒板で解説し、プロジェクタで生徒の学習状況を確認。(ツインモニターで授業を進行)



教員が本時の課題を配信し、eライブラリで単元のふりかえり。



中学2年 理科 単元名 動物の生活と生物の進化

【本時のねらい】

軟体動物の体のつくりの特徴に気づくことができる

タブレット

電子黒板

eライブラリ

SKYMENU Class

デジタル教科書

学習活動

- 前時のふりかえり
- 学習課題の確認

軟体動物の体のつくりには、どのような特徴があるのだろうか。

- デジタル教科書でアサリの解剖の仕方を確認する
解剖時のポイントや器具を使うときの注意点を確認する。【写真1】

- アサリを解剖する
体のつくりや特徴を観察する。
小型カメラで解剖したアサリを電子黒板に投映し、名称を確認する。
タブレットで撮影する。

- デジタル教科書でイカの解剖の仕方を確認する
解剖時のポイントや器具を使うときの注意点を確認する。

- イカを解剖する
体のつくりや特徴を観察する。
タブレットで撮影する。【写真2】

- アサリとイカの特徴から共通点を見つける
撮影した写真を見て、イカとアサリの特徴をSKYMENU Classの
発表ノートにまとめる。
ワークシートに共通している点と異なっている点、気づいたところを
記入する。

- まとめ

軟体動物の体には骨がなく、内臓が外とう膜でおおわれている。

- eライブラリで単元のふりかえりをする【写真3】

授業の様子



写真1
手元カメラの映像を電子黒板に投映



写真2
解剖したイカとアサリを記録（撮影）

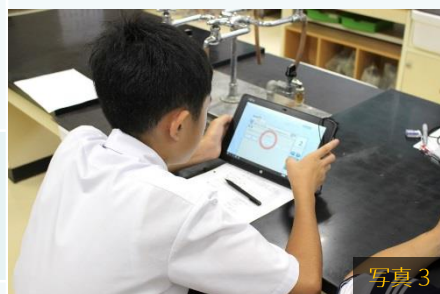


写真3
eライブラリで単元のふりかえり

レディネスでの活用効果とポイント

eライブラリは、学習前のレディネスとして小学校の教材に取り組むことができ、結果が数値に残るところが良いです。特に系統別に学習する理科では、初回正答率が低ければ、解説にひと工夫が必要と判断でき、授業の進め方を考えることもできます。

レディネスで利用するときは、単元のはじめに実施しており、基本的には授業内で行っています。授業内で時間を作れないときは、「朝自習」でもドリルを利用しているので、教科と単元を指定して取り組ませることで実施できると思います。成績が積み重なっていくことで、子どもたちも自分の苦手な分野に気づき、自ら学習するようになってきましたし、着実に学習効果が出ていると思います。



西米良中学校 理科
米良 公利 先生